

延岡小学校 令和5年度 学校評価書

(4段階評価 4・期待以上 3・期待通り 2・期待を下回る 1・改善を要する)

評価項目	評価項目	学校の自己評価コメント	自己評価	学校関係者評定	学校関係者評価のコメント
学校像	活気ある学校 学校は、「気付き、考え、幸動する児童」の育成に努めるために、様々な教育活動に取り組んでいる。	○ 学校の様々な教育活動については、学校ホームページの延小ブログで日々紹介しており、楽しみに見てくださる保護者も多く、毎月、安全点検を行い、修繕の必要な箇所や危険箇所については、学校技術員を中心に市にも連携しながら迅速に対応し、安全な環境づくりに取り組んでいる。校舎の老朽化についての意見があったが、必要に応じて市にも改善の要望をあげているところである。ICT教育の充実については、職員の経験や技能の差によるものもあるため、次年度は、さらに研修等の充実や指導計画の整備を行って、全職員が指導の充実を図ることができるようにしていく必要がある。	3.3	3.1	○ 学校ブログで日頃の学習や活動の様子を知ることにより、地域関係者としてもより一層親しみをもてるようになりまし。 (評価としては3'です。) ○ 学校の様々な教育活動がブログを通して紹介されており、先生方のご尽力されている姿がうかがえて感謝の限りです。 ○ 学校像の「気付き、考え、幸動する児童」の言葉にあるように児童一人一人が幸せを目指して今後も合言葉として大切にしていって欲しい。 ○ 延岡小は、文化・教育ゾーンの真ん中にある。内藤記念館や野口記念館等を活用した「ふるさと教育」を期待しています。
	美しい学校 学校は、子ども達が安全で安心した学校生活を送れるような教育環境づくりに取り組んでいる。				
	地域に根ざした学校 学校は、ふるさと教育・キャリア教育・福祉教育・ICT教育の充実、推進に取り組んでいる。				
目指す児童像	気付きの子ども 子ども達は、まわりの人や物事に興味をもち、変化や課題に気付いている様子が見られる。	○ 目指す児童像については、全校朝会で説明し、さらに毎月の月目標の話の中でも、どのような姿が幸動であるか、各担当から話をするので、学校全体での共通理解を図っている。児童の評価は高いが、教師の評価が低めであり、認識の差が見られる。目に見える行動だけではなく、見えないところでやっている行動や思いについても評価していく必要がある。そのためには、児童とのこまめな対話や定期的なアンケート等の児童の思いを知ることができるような手立ての工夫をしていく必要がある。 ○ 将来のことや生き方について学ぶ機会として、「子どもたちに伝えたいこと」(高学年)や「夢をはぐむ講演会」(4年生以上)を実施し、地域の方を講師に招いてキャリア教育に取り組んでいる。児童が将来を見据えて主体的に生きていけるよう、学校では、さらに道徳教育やキャリア教育、特別活動等の指導に力を入れていきたい。 ○ 校長室前のウェルビボードを活用して、児童が自主的にポスターや遊びの計画等を立てて呼びかけ、実行する姿が見られた。また、アンケートからは、教師が見ていないところで、個人的にごみ拾いや挨拶、家族のための手伝い等を考えて行動していることも分かった。見えないところで活動している児童のよさも把握し、認めることで、さらに幸動が増えていくようにしたい。	3.0	3.0	○ 地元紙などで、子ども達の学習や諸活動に頑張っている様子を見かけます。低学年からの指導には、困難もあるかと思いますが、今後とも地道に目指す児童像を伝えていただければと思います。(評価としては3'のイメージです。) 素直な子どもが多いと感じた。道で会うとあいさつしてくれる。 ○ 授業を参観して、どの子もまじめに学習に取り組んでいる。 ○ 幸動する子という児童像を中心に今後も延小ならではの子ども達を育てていって欲しい。 ○ 「子どもたちに伝えたいこと」「夢をはぐむ講演会」に力を入れて欲しい。子どもたちが地域とのつながり、人とのつながりを実感できる機会を増やして欲しい。
	考える子ども 子ども達は、家族や友だち、世の中のことについて考えている様子が見られる。				
	幸動する子ども 子ども達は、自分の現在や将来のことについて考えている様子が見られる。				
	幸動する子ども 子ども達は、周りの人のために何か行動を起こしている様子が見られる。 子ども達は、自分の将来や自らの成長のために、何か行動を起こしている様子が見られる。				
目指す教職員像	職員は、子ども一人一人の思いや願いに寄り添い、よさを認め、自信と意欲をもたせている。	○ 「学力向上を全ての子ども達に！～スクールワイドPBS(ポジティブな行動支援)を生かした指導の工夫を通して～」をテーマに校内研究を進めている。児童の好ましい行動やできたことを褒めることによって、自信や意欲をもつ児童が増えてきた。さらに、特別支援教育の研修を充実させ、特別支援教育の視点を生かした授業づくりを行うことで「楽しい授業」「分かる授業」も目指している。今後も引き続き、全職員で取り組むことで指導力及び学力の向上を目指していく。 「保護者や地域の願いを受け止め、子ども達の将来に責任をもって指導に取り組んでいる」について、10%の保護者が分からないと回答していた。今年度は、夏休みに「延小ミーティング」を行い、子どもたちのために、学校、保護者、地域ができることについて話し合った。実現できるものは実現に向けて進んでいくとともに、保護者の出席が少なかったため、保護者が参加しやすい設定を考え、地域、学校が互いの思いや願いを話し合えるようにしたい。	3.3	3.3	○ 良く言えば自由闊達、悪く言えば自己中心性の強い児童もいる中で、個性に応じた指導を行っていただいていると思います。(評価のイメージは3'です。) ○ 先生方が一生懸命に授業等に取り組んでいる姿がみられありがとうございます。今後も楽しくわかる授業に取り組んで欲しい。 ○ 特別支援教育の視点を生かした授業は大切だと思ふ。
	職員は、「楽しい授業」「分かる授業」を通して、子ども達に確かな学力を身に付けさせている。				
	職員は、保護者や地域の願いを受け止め、子ども達の将来に責任をもって指導に取り組んでいる。				
目指す保護者像	保護者は、学級・学年通信など学校からの配付物や延小ブログなどに目を通したり、我が子が学校の様子を聞いたりしている。	○ 配付物や延小ブログなどに目を通したり学校の様子を聞いたりしている保護者が多く、回答を得た保護者は、学校への関心が高いことが伺えた。一方で、全体的に、家庭(児童、保護者)と教師の認識に違いが見られる。その差を埋めていくためには、教師と保護者との対話が必要である。子育てについては家庭において多様な考えがあるため、通信や懇談、面談等で、子どものどのような姿をめざしていくかを共有したり、家庭への啓発を行ったり、子どもの様子を伝えたりしていく必要がある。 また、タブレットやゲーム・スマホなどの使用のきまりや利用状況の把握については、全校で取り組んでいる「生活リズムチェックカード」に家庭の約束事や利用状況についても記入していただくことで、学校と家庭が協力的に児童を見守っていただけるようにしたい。 ○ 学校から、講演会や子育て支援等のお知らせを配付しているが、参加は個人に任されている。学校側の働きかけとして、参観日等に、講師を招いた授業や懇談を行ったり、懇談で子育ての悩みについて話し合える場づくりを行う工夫をしていきたい。また、PTA活動については、2回の親子美化作業は、高い参加率であった。一方で、今年度は、コロナ禍で休止していた活動をどのように再開するか模索していたこともあり、各委員会における十分な活動が行えなかった。PTA役員とも相談しながら、保護者が参加しやすい活動の在り方を考えていく必要がある。	3.2	2.9	○ やむを得ない面がありますが、子どもへの配慮のしっかりしている家庭、そうでない家庭の差が気になります。スマホやゲームなどが家庭での主要な活動となり読書量が少ない印象です。(評価のイメージは3'です。) ○ ブログ等を通して保護者が学校の様子をよく理解していると思われる。 ○ 参観日等、出席率も高いと思われる。 ○ 「延小ミーティング」の出席について、保護者の積極的な参加を希望します。児童数に対して少し低調でした。 ○ どの程度までPTAの活動を(元に戻すと言っていない)のか、以前より更に充実させると言っていないのか迷いますが)再開させていのか模索中です。
	保護者は、宿題やノートを見たり、読み声を聞いたりして、我が子のがんばりを認めてあげている。				
	保護者は、子どもの自立に向けて、自分でできることしなければいけないことは、自分でできるようにさせている。				
	保護者は、タブレットやゲーム・スマホなどの使用のきまりを家庭で決め、我が子の利用状況を把握している。				
目指す保護者像	保護者は、子育てについて学ぶ機会(講演、本、相談など)をつくらうとしている。				
	保護者は、PTA活動や地域の行事等に進んで参加している。				
【まとめ及び今後の方策】 ○ 『自己評価』で挙げられた課題及び改善点を次年度の教育課程に反映させるとともに、『学校関係者評価』でコメントいただいた「ふるさと教育の充実」「地域とつながるキャリア教育」「読書の充実」「保護者の積極的参画の工夫」などに取り組んでいく。					